

〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

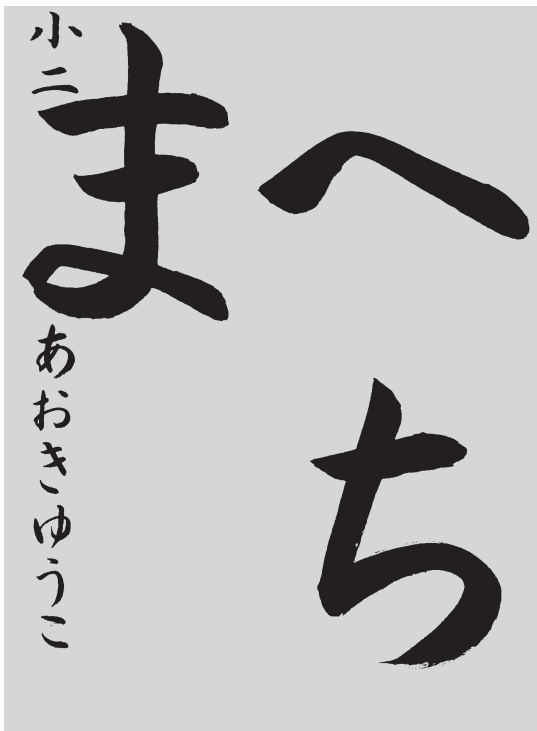


一谷春窓先生

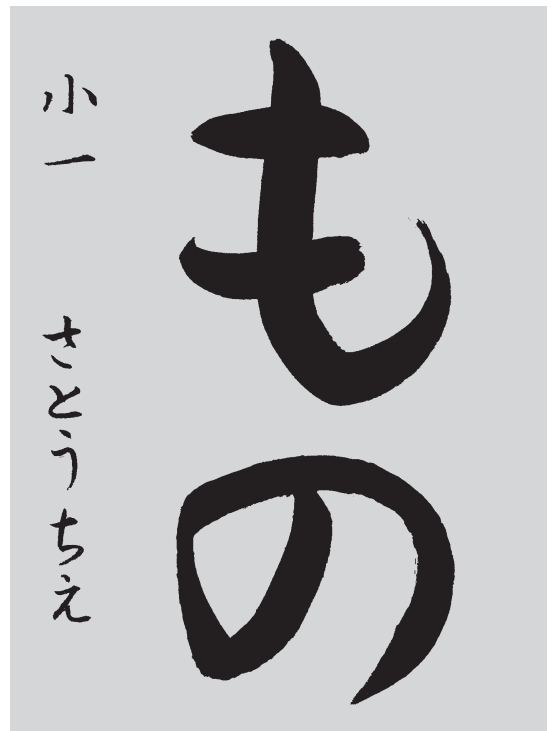
幼・小学1年参考手本



大平邑峰先生



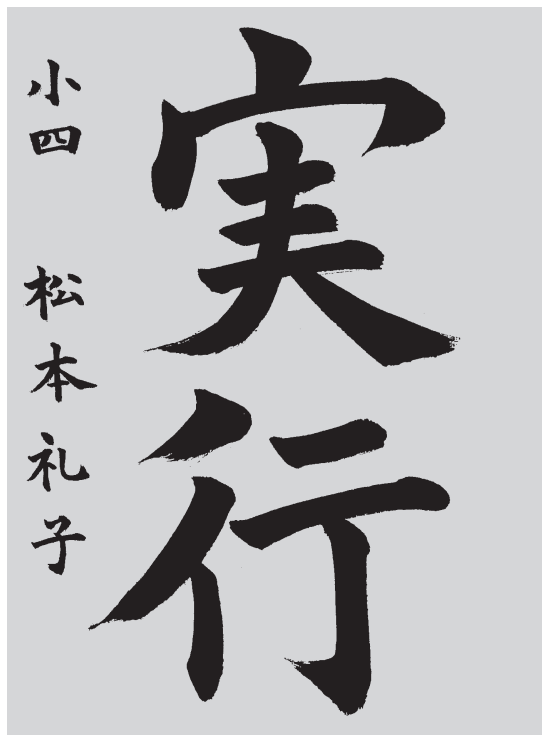
小竹石雲先生



下谷洋子先生

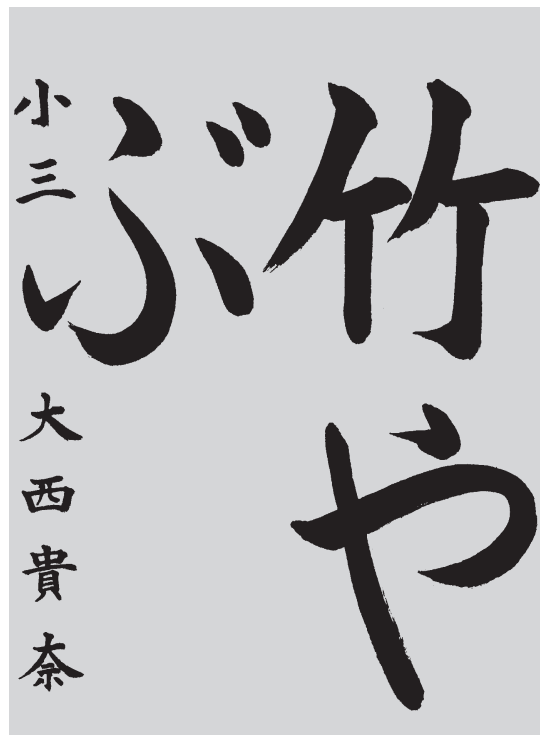
〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学4年参考手本

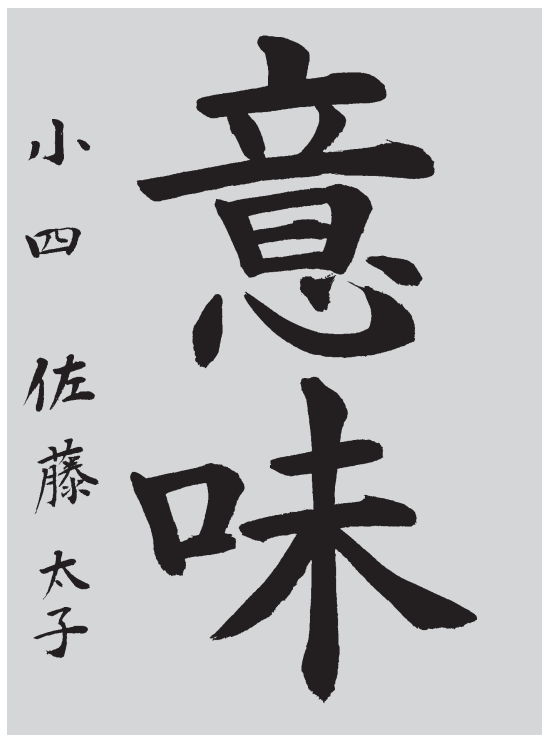


名越蒼竹先生

小学3年参考手本



板垣洞仙先生



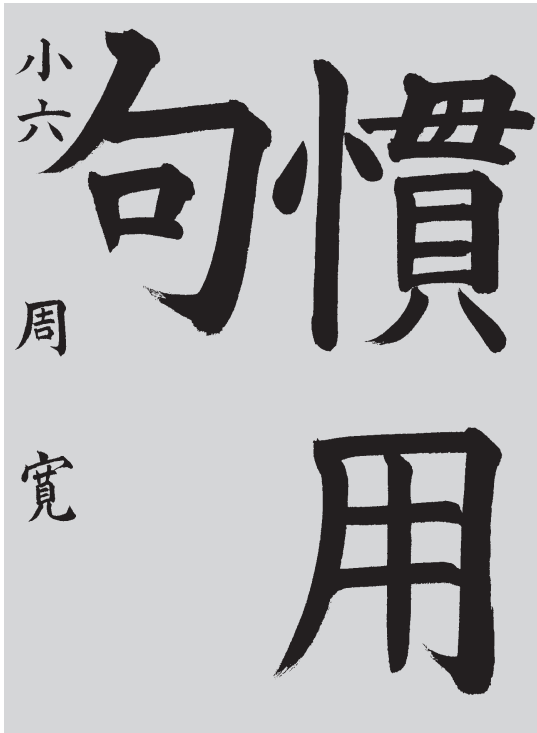
大野祥雲先生



牧泰濤先生

〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学6年参考手本



種谷萬城先生

小学5年参考手本



千葉蒼玄先生



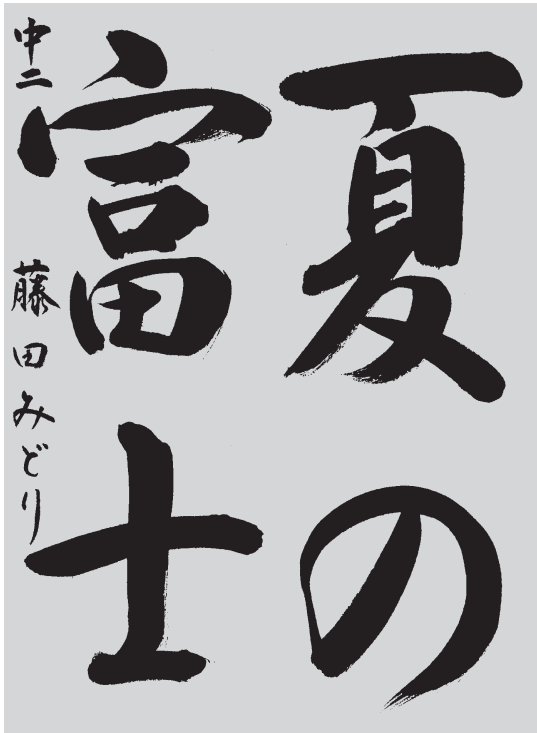
田村鄭雲先生



小林琴水先生

〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

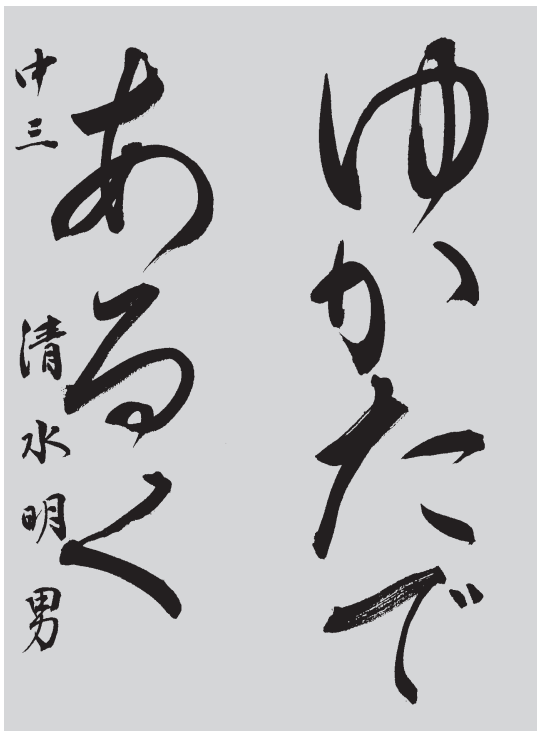
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



半田藤扇先生



大町青蓮先生



辻元大雲先生



飯高和子先生

〔8月8日締切課題〕

幼・小学 1 年

硬筆参考手本

解説 辻元大雲先生

〔8月8日締切課題〕 用紙は本院指定のものか、もしくは指定の用紙をコピーして使用してください。
 ※8月8日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、9月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(毛筆も同じ)

◎各学年に「学習のめあて」をつけました。

「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。

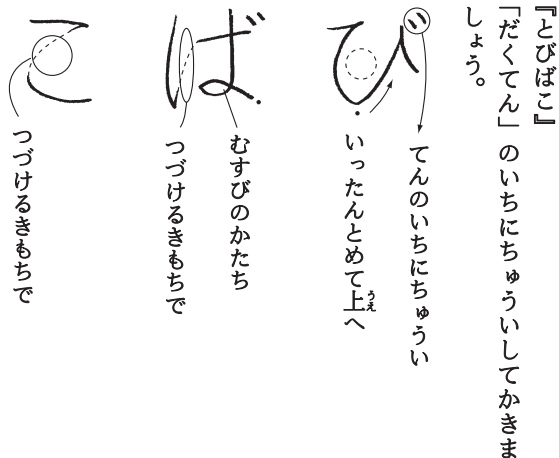
◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用して下さい。

◎学年は漢数字(一、二、三……)、級は算用数字(10、9、8……)、段は漢数字(一、二、三、四)と記入。

支 部 名					
だん・きゅう					
がくねん					
なまえ					
	び	と			
	ま	び			
	し	ば			
	た。	こ			
		を			
		と			
	よこ				
	たひ				
	ろと				

◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。
 ◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。
 ◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよい。

◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の貼り間違いにご注意ください。



〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学 3 年

小学 2 年

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年				
名 前				
	三			
	上地晴紀			
	して	や		
	て	さ		
	く	し		
	れ	い		
	ま	調		
	ま	子		
	し	で		
	た	話		
	。			

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年				
名 前				
	二			
	戸田ゆかり			
	た	夏		
	く	休		
	さ	み		
	ん	に		
	読	は		
	み	。		
	た	本		
	い	を		
	。			

『やさしい調子』
漢字の組み立てに気をつけて字形を整え
ましよう。

「へん」と「つくり」の
組み立て方に注意

「へん」と「つくり」の
組み立て方に注意

「へん」と「つくり」の
組み立て方に注意

「話」の字形をただしくかきましよう。
「夏」の字形をただしくかきましよう。

「夏休み」
「夏」の字形をただしくかきましよう。
「夏」の字形をただしくかきましよう。

「休」の字形をただしくかきましよう。
「休」の字形をただしくかきましよう。

「話」の字形をただしくかきましよう。
「話」の字形をただしくかきましよう。

〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学 5 年

小学 4 年

支 部 名			
段 ・ 級			
学 年	五		
名 前	木村誠太		

	ら う よ う お 願 い し た。 。	を 、 直 ち に 移 動 し て も	案 内 板 の 前 の 自 転 車
--	---	--	---

支 部 名			
段 ・ 級			
学 年	四		
名 前	横川加奈		

	身 を 調 べ ま し た。 。	を 持 ち よ り 、 記 事 の 中	毎 日 読 ん で い る 新 聞
--	---------------------------------------	--	---

四つの左はらいの方向に注意

つくりの「力」を下に。
最後の画の長さ方向が大切

中心
案

「女」をへん平に
長く

『自転車』
画数の多い漢字を整えて書きましょう。

たて、よこの分間に注意

接し方に注意

長く
〈筆順〉
へん へん へん

『新聞』
筆順に注意して、字形を整えましょう。

〔8月8日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中学生

小学6年

支 部 名	平成八年に、広島 の原爆ドーム が、ユネスコの 世界遺産への仲 間 入りを果たした。
段・級	
学 年	
名 前	
中一 安部 杏	

支 部 名	どんな立派な演説 も、人の心に届か なければ意味がない。
段・級	
学 年	
名 前	
六 長友 絵利	

世界
 平成
 広島

〈簡単な行書〉

世界遺産への仲間

『世界遺産』
 漢字、ひらがな、カタカナをつりあいよく
 書きましょう。

説

曲がり
 「口」をへん平に

演

〈筆順〉
 汙汚汚汚演

派

入る方向に注意
 接し方に注意

『演説』
 「へん」と「つくり」の組み立て方に気を
 つけて書きましょう。



3年	竹	チク たけ	ノ	㇇	个	竹				
4年	実	ジツ みの・る	、	宀	宀	宀	宀	宀	宀	実
	意	イ	、	立	立	音	意	意		
5年	開	カイ ひら・く ひら・ける あ・く あ・ける	丨	冂	冂	門	門	門	開	
	始	シ はじ・める はじ・まる	く	女	女	始	始			
	線	セン	幺	糸	紉	紉	線	線		
6年	慣	カン な・れる な・らす	ハ	忄	忄	忄	忄	忄	慣	
	句	ク	ノ	勺	句					
	考	コウ かんが・える	土	耂	考	考				
中学	球	キユウ たま	一	冂	王	玊	玊	球	球	
	富	フ フウ と・む とみ	、	宀	宀	宀	富	富		
	士	シ	一	十	士					

行書を学ぼう

(204)

(中学生の課題より、辻元大雲先生書)

行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

浴

浴

大

大

野

野

衣

衣

会

会

球

球

ひらがなの字源

(204)

書写教育
全国大学書写書道教育学会編より転載

	く	る	あ	で	た	か	ゆ	源字	字形
	く	る	あ	で	た	か	ゆ		
	久	留	安	天	太	加	由		
	久	る	安	て	た	か	ゆ		
	く	る	あ	て	た	か	ゆ		

※源字については、異字体から変遷したもの。*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

漢字に親しもう

53

八月号六年生の毛筆課題「慣用句」について学んでみよう。

慣

おん
かん
くん なるる・ならず

本貫
心貫
心貫
心貫

●貝（ \parallel まるい貝を一本のひもでつき通した形。つらぬく）と、 Ψ （ \parallel 心）を組み合わせた字。
かわらないやり方をつづげる気持ちを表す。
「なれる」「ならわし」などの意味に使う。



《慣用句の例》

◎体の一部を用いた表現が非常に多い

油を売る あぶら いう	仕事をなまけること	腹が立つ はら たち	怒りを感じることに
顔が広い かお ひろい	人によく知られていること	目が無い めが ない	たいへん好きなことに
肝に銘ずる かみ めいずる	心に深く刻みこんで 忘れないようにすること	頭角をあらわす かぶかど さらわす	多くの中でめきんでること 多くの中から一歩リードすること
筆が立つ ふで たち	文章を作ることが上手なこと	耳にたこができる みみ たいこ できる	何度も同じことを聞かされて 聞きあきたということ

◎慣用句（かんようく）とは、いくつかの言葉がむすびついて、ある特別な意味をもって使われるようになったもの。「ことわざ」は教訓や格言として使われる事が多いけれど「慣用句」は日常の行動や物事の状況を面白おかしく表現したものである。

編集余録

○春季昇級試験の審査会が行われました。審査の結果、特待生に合格された方々の名前を掲載しました。合格おめでとうございます。

○辻元大雲審査長に昇級試験の総評を書いていただきました。良く読んで今後の学習の参考にしてください。皆さんの一層の上達を期待しています。

○第66回全国学生書道展の募集要項が出来上がりました。作品の締め切りは10月31日です。半紙の部と半切1/2の部の両方に出品出来ます。今から準備して力作を多数お寄せください。指導者作品展示も東京都美術館の同じ会場で開催されます。指導者の先生方の出品協力も合わせて、宜しく願います。

○サッカー 2014 ワールドカップ ブラジル大会が開催されます。サムライブルー日本はグループCで予選3試合、コートジボアール、ギリシャ、コロンビアと戦います。3チームとも強豪ですが、何とか予選リーグを突破してほしいものです。ワクワクした活躍を楽しみにしています。気合いを入れて、しっかり応援したいと思います。

(鄭街)